

日本技術士会北海道本部 第 59 回 年次大会・講演会

小澤達也

1. はじめに

公益社団法人日本技術士会北海道本部の第 59 回年次大会が 2024 年 7 月 10 日(水) ホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。会議の概要と講演会、懇親会について報告いたします。《出席者 62 名》

2. 年次大会(15:30 ~ 16:30)

年次大会では、定期報告として 5 つの報告がありました。年次大会資料を、本会誌後ろの年次大会報告に掲載していますのでご覧ください。



写真-1 会場の様子

(1) 開会挨拶

金本部長より、新千円札の北里柴三郎は、破傷風菌の発見と治療法の開発、血清療法を



写真-2 金本部長

確立された方であり、科学技術を駆使して社会に貢献された方がお札に取り上げられたことは、我々技術者にとっても喜ばしいことであると同時に、技術者として我々も日々努力しなければならないと気が引き締まる思いであったと述べられました。

続いて、技術士 CPD 登録を進めることは、技術士資格の地位向上に繋がる道の一つであるため、周りの方々にも CPD 登録を是非勧めてほしいとのお話がありました。

最後に、全国大会に向けてさらに準備を進め、力を合わせて北海道本部と一緒に盛り上げていきたいと述べられ、参加登録のお願いとともに、なお一層のご支援、ご協力をお願いしたいと結ばれました。

(2) 報告事項と質疑応答

①第 1 号報告(2023 年度事業報告及び決算報告)

長井事務局長より、2023 年度の事業及び決算報告が行われ、寺島会計幹事より適正かつ問題の無い旨の監査報告がありました。

②第 2 号報告(2024 年度事業計画・予算説明)

前号に続いて、2024 年度の事業計画と予算についての説明が行われました。

今年度は全国大会開催のため予算規模が大きくなっており、全国大会の予算規模は前回の札幌大会および物価高による影響を踏まえ設定しているとの説明がありました。また、全国大会後の繰越額は通常年度当初の繰越額を上回る予定であるが、全国大会後の実額を把握し、より確実な運営、予算管理、CPD 行事等の参加料収入の増加、会員の増加による地域組織活動費収入の上積みを目指し、2025 年度以降、健全かつ持続可能な運営を行っていききたいとの説明がありました。(詳しい予算内訳等は、本会誌後ろに掲載の大会資料を参照願います。)

③第 3 号報告(北海道本部委員会等役員について)

2024 年度の北海道本部委員会等役員の交代について報告がありました。北方海域技術研究委員会の幹事長に石川技術士が新たに就任され、その他の方は前年度と変更ありませんでした。

④第 4 号報告(日本技術士会新名誉会員)

名誉会員推薦規則に基づく推挙者について、事務局より報告がありました。北海道本部より、能登繁幸特別顧問を推挙し、2024 年度第 1 回理事会において承認されました。能登特別顧問は、平成 21 年度～平成 24 年度まで統括本部理事、平成 19 年度～22 年度まで北海道支部副支部長、平成 23 年度～24 年度まで北海道本部副本部長、平成 25 年度

～ 28 年度まで北海道本部長を務められ、現在は当本部の特別顧問になられています。

⑤第 5 号報告(日本技術士会会長表彰者)

2024 年度日本技術士会会長表彰の受賞者について事務局より報告がありました。北海道本部から、橘 邦彦氏、奈良哲男氏が受賞されました。

新名誉会員、会長表彰受賞者の略歴等は本会誌グラビアをご覧ください。

(3) 閉会

議事終了後、全国大会に向けた準備の状況について、羽二生実行委員長より報告がありました。

3. 講演会(16:30～17:30)

今回は、北海道大学触媒科学研究所特任教授・北海道大学名誉教授の福岡淳氏をお迎えし、「プラチナ触媒によるフードロス削減」と題してご講演いただきました。

(1) 講師のご経歴

福岡様は、東京大学大学院工学系研究科工業化学専攻修士課程を修了された後、2007 年からは北海道大学触媒化学研究セ



写真-3 福岡 淳 氏

ンター教授として、触媒化学の研究分野において多くの論文を学会に発表されています。2024 年 4 月からは北海道大学触媒科学研究所特任教授となりました。固体触媒によるセルロース系バイオマスの分解に関する研究成果は、世界各地で同様の研究が行われるきっかけとなりました。また、現在は、「プラチナ触媒」が冷蔵庫の野菜室や貯蔵庫で実用化され、フードロス削減に大きく貢献されておられます。

(2) 講演について

ご講演では、触媒は化学プロセスの 90%以上に使用され、世界の GDP の 35%以上に貢献していることから、触媒には「役に立つ」ことが求められ、研究者としては常に応用を見据えながら、触媒の基礎研究を行うことが重要と述べられました。一酸化炭素を酸化して二酸化炭素にする担持金属触媒を用いて、触媒化学における難反応の一つである「エチ

レンの部分酸化」に挑戦されましたが失敗し、研究を中断していたところ、青果物の保存の分野に活用できることを見出し、低温で微量エチレンを除去できることを論文発表されたとのこと。その後「プラチナ触媒」として日立 GLS の冷蔵庫に搭載され、5 年間で 160 万台の冷蔵庫で使用されたこと、セコマの大型野菜貯蔵庫での試験では、野菜や果物の鮮度保持の効果が実証され、野菜の歩留まりの向上とともに、貯蔵庫内で必要な触媒の使用量を試算することが可能となったことなどをお話しされました。2020 年度からは「フードロス削減コンソーシアム」を通じて、触媒を用いたフードロス削減のための技術指導や情報共有が行われているとのこと。

最後に、食品廃棄物は欧米を中心に主に埋立地造成に使われ、発酵により生成されるメタンの温室効果は CO₂ の 28 倍であるため、フードロス削減は温暖化対策の近道と言われていること、今後の課題としては、白金量の削減、触媒の高性能化(活性、耐久性)、倉庫以外への展開を挙げられました。

4. 懇親会(17:45～19:30)

講演会終了後、会場を隣の部屋に移して懇親会が開催されました。《出席者：会員他 48 名》

飯野事務局次長の進行により、植村副本部長の開会挨拶と乾杯の音頭で開宴となり、懇親会がスタートしました。開宴後は、ご講演いただいた福岡様からのご挨拶、会長表彰受賞者の橘技術士からのご挨拶があり、続いて地方技術士委員会からのご挨拶がありました。宴もたけなわでしたが、最後に布村副本部長の乾杯により閉会しました。

5. おわりに

今回快くご講演をお引き受けいただいた福岡様に心からお礼申し上げます。

いよいよ 10 月には技術士全国大会(札幌・北海道)が開催されます。会員・会友の皆様のご支援・ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

小 澤 達 也 (おざわ たつや)

技術士(建設部門)

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン

